



年頭のご挨拶

会長 木下 毅

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

今年は4月の診療報酬改定、8月を目標に2025年に向けた地域医療構想策定と医療界に大きな変化が起こりそうな年です。

財務省等は診療報酬をマイナス改定をしていますが、医療経営実態調査ではいずれの医療機関も前々年度に比較してマイナスとなっています。一方政府は一般企業には給与のアップや時給1000円を求めています。マイナス改定では医療機関は人件費をあげる財源は出てきません。このような政策が行われると、医療・介護の世界に益々人が集まらなくなってしまいます。また医療崩壊を招く恐れがあります。国は介護離職ゼロを訴えていますが、医療・介護に必要な人員が確保できなければ実現不可能です。世間並の給与が支払できる診療報酬にしなければならないと思っています。医師だけの所得が比較されていますが、看護・介護やその他の職種の給与については全くふれておらずおかしな話です。医師の給与が診療報酬引き下げの材料にされているとしか思えません。

病院経営、人材確保がますます大変になって来ますが、国の力の維持・向上や、国民の健康のためには医療は重要な役割を果たしています。国民の健康が経済発展の力になることを財務省は忘れているのでしょうか。医療団体が一体となって訴え続けて行かなければならないと思います。また、それぞれの病院の維持発展を図ると共に病院団体としては制度の充実・簡素化を訴えて行くのも必要と考えます。改定の度に制度が複雑になってきています。現場はそれを理解するのに大変苦労しています。わかりやすい制度になるように病院団体は訴え続けて行く必要があります。医療スタッフが人員や時間管理に時間をとられるのではなく、直接患者さんに関わる時間を第一に考えるべきです。

山口県でも地域医療構想の策定が進められています。地域の実情を考えて策定するとなっていますが、国から表された数を変更する事はむずかしい仕組みになっており、取りまとめができるかどうか分かりません。地域に必要な病床を整備するとなっていますが、病床削減ばかりが目立ちすぎています。たとえ構想が策定されてもその実現性はどうか。

いろいろ問題のある年になりそうですが、今年も皆様にとって幸せな年でありますように祈りつつ、年頭のご挨拶と致します。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
山口県医師会会長挨拶	2 ページ
会報50号を記念して	3～4 ページ
病院スタッフコーナー	5～7 ページ
医療経営講習会報告	8 ページ
研修会報告	8～9 ページ
諸会議報告	10ページ
事務長部会コーナー	10ページ
平成27年秋の叙勲	11ページ
女性活躍推進法のお知らせ	11ページ
お知らせコーナー	12ページ

年頭所感

将来にわたり県民から信頼される医療を提供していくために



山口県医師会

会長 小田 悦郎

皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中はお世話になりました。また、この度、山口県病院協会会報の発行が、記念すべき50号の節目を迎えられましたことは、誠におめでとうございます。

さて、安倍政権の安定した政策の実行により、社会・経済に明るい状況がでてきているものの、医療を取り巻く環境は依然厳しく、医療費削減政策の推進により地域医療に大きな影響が出ており、また医療提供体制の改革や医療制度、医業経営の見直しをはじめ団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題など、課題が山積しています。

このうち、将来の医療提供体制に係る地域医療構想については、昨年8圏域で協議会が開催され、それぞれの圏域にふさわしい構想策定に向けての検討が進められ、県医師会としては、郡市医師会や貴協会などと連携を取りながら対応してきました。今年半ばを目途に、地域医療構想が策定され、この構想に基づき、各医療機関や郡市医師会等において事業が展開されることになります。

さらに、昨年の10月からは、医療安全の確保を目的に、医療事故調査制度が施行され、予期せぬ死亡事故が発生した場合に院内事故調査委員会を設置して原因等の必要な調査を行わなければなりません、調査支援団体として貴協会、山口県医師会等が認定されたところです。

また、平成29年度から導入される新たな専門医制度については、専門医研修プログラム策定の検討が進められていますが、今年は専門医研修プログラムの提示、専攻医登録が開始される予定です。新たな専門医制度の運用により、若手医師が山口県に残り専門医となれるよう、オール山口で取組みを進めていく必要があります。

T P Pの大筋合意については、医療への影響が不透明な部分もあり、今後の注視が必要です。

当面の課題としては、県民に必要かつ持続可能な医療提供体制を確保するためには、医療機関が健全な経営を続けることが重要であり、これとの関係で、診療報酬の改定と患者や医療機関に不合理な負担を生じさせている医療等に係る消費税問題の解決を早期に図る必要があります。

以上の諸課題を解決し、県民の生命と健康を守るためには、貴協会、医師会、看護協会をはじめ医療関係団体等が一致団結して取り組むことがますます重要であると考えていますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様の今年1年のご健勝、ご多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



会報50号を記念して

山口県病院協会会報50号発刊に寄せて



公立大学法人
山口県立大学

理事長 江里 健輔

少子高齢化をはじめとする急激に社会情勢が変革する現在、ますます深化・発展する医学・医療界で存在感を示すには怒濤の如く押し寄せる情報を的確に把握し、活用することが重要であります。

山口県の1人あたりの医療費は36万4350円（2010年度国民健康保険事業年報）で、全国でトップであります。人口あたり病床数が多いほど医療体制が充実しているとも言えますが、反面、高齢者の外来医療、入院医療が膨らんでいるとも言えます。これを良しとするかどうかの判断は難しいですが、本邦の医療費の70～80%が病院群で占められていることより、各病院の有り様が日本の医療を左右すると申しても過言ではありません。

山口県病院協会には、60年余に亘り精力的に活動してきた実績があります。会員相互はもとより、各関係機関に向かっても各病院群の窓口としてパイプ役を担ってまいりました。そのような折り、協会が更に発展し、強固な地盤を固めるために山口県病院協会

会報（以下会報誌とす）を発行することが要請され、平成15年9月情報委員会（委員長：江里健輔）を発足し、10月に、判り易く、読みやすく、簡潔をモットーに第1号が発刊されました。爾来、会報誌は時代の流れを敏感に察知し、内容も充実し、発刊部数も1,000以上に達し、会員はもとより関係機関に送付してきました。お蔭さまで山口県病院協会への理解を深めることが出来たと自負しています。

今後とも本会報誌が県民及び会員の方々の期待に沿えるよう、更に発展することを祈念申し上げます。

会報50号を記念して



医療法人
仁保病院

理事長 貞國 燿

皆様、新年あけましておめでとうございます。

同時に、会報50号の発行も大変おめでたいこととお喜び申し上げます。12年間にわたり、会報の発行に努力を続けられた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

締め切り間際になってこの原稿を書いたことがばれてしまいますが、先週、金曜日の13日、パリで大規模な自爆同時テロ事件が起こりました。多くの死傷者が出て、悲惨きわまりない事件で、心が悼みました。

その他にも、世間では、人間性を疑うような事件事故が頻発しております。人間が崩れているのでしょうか。

同時に医療の世界も、崩れてしまう怖れを感じるこの頃です。

自国の収支と経済指標の改善を第一とする政治の方向は正しいのでしょうか。そのために増税と節約を求め、社会福祉という公共サービスまでを、それを必要とする利用者の負担と民間事業者の競争に任せようとしているようです。医療に限れば、昔、厚生省

の偉いお役人が主張した「医療費亡国論」が生きており、医師を減らし医療費を節約しようという方向に向けての方策がいまだに跋扈しているようにも思えます。

小生としては、収支にこだわらないで、社会のお役に立つ病院を経営し続けたいと願っております。

会員の皆様も、山口県病院協会に力を結集して、「高貴な医療」の理念を守り続けて参りましょう。

偉そうなことを書いてしまいましたが、以上、会報50号を記念してのご挨拶とさせていただきます。

会報50号を記念して

山口県病院協会会報50号を祝して



美祢市立美東病院

顧問 小田 裕胤

新年明けましておめでとうございます。さらにこの新年号が山口県病院協会会報の記念すべき50号となりますことに衷心よりお慶びを申し上げます。昭和26年に創設されました山口県病院協会が平成13年には50周年を迎えました。山口県内で142病院、90%以上の高い組織率を誇ります本会に、変動著しい医療制度改革に迅速に対応できますよう会員病院間の情報の共有、連携の強化などを目的として、平成15年10月1日に待望の創刊号が発行されました。これまでの会報には西田健一、貞國燿、木下毅歴代会長の年頭挨拶にはじまり、各地域会員病院のご紹介、協会役員コーナー、総会など病院協会の各種事業報告などが掲載されてきました。とくに病院スタッフコーナーには重点をおいた編集が行われ、第2回の10名に始まり第48回まで、総計205名の各病院の職員の皆様にご登場いただきました。職種も県内を区分けして、公平に医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、理学・作業療法士、事務職など16業種の皆様のご意見を掲載させていただきました。ご協力にあらためて深く感謝申し上げます。これはこの会報が会員である病院長を対象とした情報交換の場であるとともに、会員病院において、実際の業務に従事されている多くの職種の皆様にも、より身近な、有益な情報手段として、ご活用いただけることを目的として編纂されたことによります。私も第16号より38号までを担当させていただきました。今後益々充実した病院協会ならびに会報のご発展を祈念いたします。

山口県病院協会会報第50号に寄せて



小野田赤十字病院

病院長 水田 英司

明けましておめでとうございます。

平成15年10月に産声を上げた山口県病院協会会報は平成28年度新年号で第50号を迎えることが出来ました。これもひとえに編集に携わった編集委員の皆様と、熱心にお読みいただいた会員の皆様のおかげと深く感謝いたします。

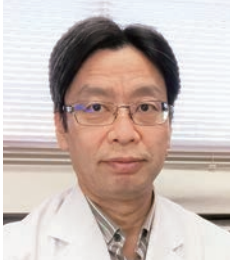
私が前の委員長の江里健輔先生の後をお引き受けしたのが平成19年4月でした。じつは、平成15年10月の会報創刊の時から情報管理委員会委員として会報の編集に携わっていましたし、また江里委員長や事務局の様々なご努力によって会報のレイアウトやスタイルも確立されていたので、後任の委員長の仕事は3ヶ月毎の委員会の議事運営ぐらいでした。ただホームページに関しては情報発信がまだまだ十分といえるものではなく、今後も会員の皆様から良いお知恵を拝借しながら改良してまいりたいと思っていますので、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

その後約9年近くを委員長として勤めさせていただきましたが、この間、数回の診療報酬の改定や介護報酬の改定などに振り回されてきた気がいたします。会報では毎号、病院協会役員コーナーを設けており、病院長の行き場のない怒りともたれ息ともとれるご意見も多く寄せられていますが、逆に病院スタッフコーナーでは、何とか病院の向上を目指そうとする院内活性化の声も聞こえてきて頼もしく思っています。また平成21年10月からは事務長部会コーナーが設けられ、病院長とともに病院運営の両輪としての役割を果たそうとされる事務（部）長さん達の取り組みも紹介されることとなりました。今後も良きアドバイザーとして会報を育てて頂きますようお願いいたします。

さて情報管理委員会は現在、病院協会の中で最も活動している委員会となりましたが、これからも会員の皆様に正確で分かりやすい情報を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院スタッフコーナー

病院の理念 再認識したこと



光市立光総合病院
副院長

医師 竹中 智昭

新年あけましておめでとうございます。

当院は210床の急性期病院です。当院の理念は「私たちは、良質で安全で心温まる医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院づくりにつとめます。」となっております。

私の机の前にはこの理念が掲示されています。4年前、病院機能評価受審のさい用意したものです。その時は受審対策として理念を覚えるためでしたが、毎日眺めているうちに、良いことが書かれているなぁと感じるようになりました。私自身を含め、病院スタッフの日々の医療行為がこの理念に叶うものなのか気になります。

以前は病院の理念と言われても、わざわざ覚える努力をしたように、私にとっては形だけの美辞麗句でしかありませんでした。しかし今は、達成すべき目標であり、力を与えてくれる魔法の呪文でもあります。一日の仕事が終わり部屋に戻ると、病院の理念が目に入ります。今日一日、この理念に叶うことをしてきたかと自問自答します。そして明日こそは頑張ろうと気持ちを新たにします。

当院は今後、新病院建築や病院機能評価更新受審など控えており、今年も忙しくなりそうです。「病院の理念」を念頭におき、乗り切って行きたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域に根づいた看護の提供



岩国市立美和病院
訪問看護主任

看護師 西本 和枝

新年明けましておめでとうございます。

当院は岩国市北東部に位置し、緑と水に恵まれた自然豊かなところにあります。私達は地域の医療拠点として外来や病棟（60床）はもちろんのこと、訪問看護や在宅医療にも積極的に取り組んでいるところです。

さて年々高齢化が進むなか、美和町でも同様に65歳以上の高齢者が42.3%、75歳以上では24.8%と年々増加しています。そのため、美和町の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築が重要となってきます。しかし先ずは院内での方向性を再確認し他施設等との連携をより充実させ、退院後も安心して在宅生活が送れるよう退院支援および在宅支援に力を入れていくことを今年の目標としました。平成25年10月からは理学療法士が職員として加わり、退院調整時の自宅訪問や訪問看護での対応もお願いし、在宅へ向けての看護を目指しています。

私自身この病院での勤務は8年目になります。当初は地域のことが全く分からない状態で、訪問看護勤務となりました。未だ地域のことは把握しきれていませんが、実際に訪問に伺うとそこには生き生きとされているみなさんの笑顔があります。訪問した時には「看護師さんが来るのを楽しみに待ってるんよ」と嬉しい言葉をもらい、私もその言葉と笑顔に元気づけられ励まされています。当院の理念に「コミュニケーションを図り、信頼関係に基づいた医療を行います」とあります。訪問した時に本人や家族に対していろんな内容の話をする場面がありますが、時には言いづらいこともあります。その時に相手との信頼関係が築けていると、スムーズに事が運ぶような気がします。人と人との関係性は目に見えるものではありませんが、とても重要だと感じます。これからも人との繋がりを大切に、地域に貢献できるよう仕事に励んでいこうと思います。

病院スタッフコーナー

申年に新たな気持ちで



山口県厚生農業協同組合連合会
小郡第一総合病院
臨床工学科長

臨床工技士 小廻 哲也

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は「申」ということでその意味を調べますと、そもそも十二支は中国の農業暦が元になっており草木の誕生から衰退までのサイクルを12等分に分けて表したものです。そして「申」の意味は果実が成熟し固まった状態を表します。動物で言い表すのは農作業に欠かせない暦を覚えやすくするために動物の「猿」とは関係ないそうです。

私は今年で臨床工技士として12年目を迎えます。これまで人工透析などの血液浄化関連業務、ペースメーカーや心臓カテーテルの循環器業務、手術室業務や医療機器管理業務と臨床現場でさまざまな経験を積み技術を磨く事ができました。さらに昨年からは院内の医療機器を安全で適正に使用できるよう定期点検の計画と実施、医療機器の選定と購入から廃棄までのマネジメント業務もおこなっています。まさに十二支の「申」のように技術を成熟させ固まった状態にする年であります。また暦のうえで12年と区切りの年であるのでこれまでの臨床工技士として自分を振り返り、さらなるステップアップのための土台作りができるような年にしたいと考えます。

まず、あらためて日々点検している医療機器の向こうには常に患者さんがいるということを念頭において業務に励みたいと思います。さらに今年はチーム医療の一員として医師や看護師、他部署のスタッフとの連携を深めて工学的な側面からのサポートを強化したいと考えます。

病院薬剤師の業務（専門領域とチーム医療）



独立行政法人国立病院機構
山口宇部医療センター
薬剤部長

薬剤師 松久 哲章

新年明けましておめでとうございます。

山口宇部医療センター薬剤部長の松久哲章です。本稿では、病院薬剤師の業務について紹介致します。

患者様にとって、最も安全で効果的な薬物療法を確実に支援するのが病院薬剤師です。当院においても薬剤師は医師・看護師・その他の医療スタッフと共にチーム医療の一員として、高度な医療を着実に実施しています。具体的には医薬品の供給・品質管理をはじめ、調剤・製剤、注射薬調剤、医薬品情報管理、薬歴管理、薬剤指導、薬物モニタリング、医療安全、治験・臨床研究等に専門的に取り組んでいます。最近では、特定領域において他の医療職からの要請に応えることのできる専門薬剤師の育成を行っています。スキルアップのためには学会・研修会等の発表に加えて、院内感染対策、がん化学療法、緩和医療、褥瘡対策等のチーム医療への参加、更にはクリティカルパス共同作成に実践

的に関わっています。

当薬剤部では、現在11名の薬剤師が前述の業務に携わっていますが、認定の取得状況は、がん指導1名、がん専門1名、がん薬物療法3名、糖尿病療養指導1名、NST専門療法1名、禁煙専門1名、認定実務実習指導3名、生涯研修認定9名等です。実務事例には、経口抗がん薬による皮膚障害対策として個別指導を行いつつ、患者・家族向けの皮膚障害対応教室も開催しています。日進月歩する医療の中では、病院薬剤師がチームの一員として患者様中心の医療に参画することが重要と考えています。

病院スタッフコーナー

病院職員の一員となって



美祢市立病院
医事係長

藤村 龍夫

新年あけましておめでとうございます。

当院は併設する介護老人保健施設グリーンヒル美祢とともに、急性期医療から慢性期医療・介護までを行う145床の自治体病院です。

美祢市には、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や日本屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」など、大自然を活用した観光資源があります。また、奈良の大仏建立で使用された銅を産出した「長登銅山」や、明治時代の海軍の燃料用として無煙炭を採掘した「大嶺炭田」など地質資源に恵まれた地域であり、この地質遺産の保護と活用に取り組む日本ジオパークに昨年9月に認定され、「Mine秋吉台ジオパーク」が誕生しました。

大自然の恵み豊かなまちですが、人口2.7万人の高齢化が進む中山間地でもあり、当院は地域の中核病院としてその役割を果たしていかなければなりません。

さて、私は昨年4月の人事異動により事務部医事係へ配属となりました。前職は観光振興の業務に携わっておりましたので、業務内容が180°変わったという感じです。配属当初はスタッフの方の顔や名前もわからず、どこに何があるのか、制度や仕組みがどのようになっているのか、聞いた言葉の意味は何なのか、毎日のように頭の中が「?・?・?」となっていました。今でも「?」なことは多々ありますが、上司や同僚に学びながら業務にあたっています。

まだまだ患者様や病院スタッフから信頼される職員とまでは成長できていませんが、当院の基本理念である「市民に信頼され、思いやりのある医療を提供します。」を旨に、地域医療を支える一員として努力していきたいと思っています。

介護職員として



医療法人社団 青寿会
武久病院
介護リーダー

介護福祉士 徳永 利律子

新年あけましておめでとうございます。

当院では、多職種のチームケアを活性化させ、患者様の状態に応じて可能な限り在宅へ復帰する事を目的として取り組んでいます。

その中においても介護職員は最も患者様との接触が多いため、基本的な知識・技術をしっかり身に付ける事が必要だと思います。

私は40代で未経験の状態から介護の仕事を始めました。介護の仕事は大変だと聞かされていましたが。幸いにも資格を取得しましたが、介護職以外の仕事に変えた人も沢山いるだけに、自分の選んだ道は正しかったのかと悩んだ時期もありました。

しかし患者様の自立のサポートを行う事により症状が改善されたり、コミュニケーションを取る楽しさや「ありがとう」と感謝される事の嬉しさなど身を以って感じられる様になり、自分がしてきた仕事が間違いではなかったと思う様になりました。

医学的な知識は病気を患っている方々に関わっていく内に身に付けていく事が出来ると思います。けれど、生活や生き方は誰一人同じではありません。私達介護職にとって一人ひとり異なった思いや生活背景を理解する上で、行動する事がとても大切だと思います。

介護職として、その方の今をしっかりと見据え、細やかなケアが提供出来る様ひとつひとつ積み重ねて自分自身も成長して行きたいと思っています。

医療経営講習会報告

平成27年度 夏季医療経営講習会

平成27年9月29日（火）、山口グランドホテルにおいて夏季医療経営講習会が開催され、99名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下の通り。

テーマ 「我が国の医療制度改革の方向性を考える」
講師 産業医科大学 公衆衛生学教室
教授 松田 晋哉 氏

講師の松田氏は、医療制度改革が不可避となった背景である少子高齢化の進展と、それによる医療提供体

制見直しの必要性や社会保障制度の持続可能性への懸念拡大について、データや分析に基づいて解説された。

また、「医療の質」に配慮した改革の重要性も説かれ、慢性期の高齢者をどのように地域でケアするか、医療介護施設が提供している「安心を保证する機能」を地域に解放していくという発想の必要性を実例を挙げながら講演され、参加者は熱心に受講していた。



講習会風景



松田晋哉氏

研修会報告

平成27年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

平成27年9月29日（火）、山口県総合保健会館多目的ホールにおいて、病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され、195名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下の通り。

テーマ 「食中毒予防のための正しい衛生管理について」
講師 山口大学医学部附属病院 薬剤部
准教授 尾家 重治 氏

テーマ 「がん患者さんへの対応の工夫について」
～医療と仏教が臨床で出会う～
講師 浄土真宗本願寺派善福寺住職（鹿児島市）
鹿児島緩和ケアネットワーク世話人
浄土真宗本願寺派布教使
長倉 伯博 氏

テーマ 「今日は何を召しあがりますか？」
～がん患者に食で寄り添う緩和病棟に～
講師 下関市立市民病院 栄養管理部
主任 中川 初美 氏



尾家重治氏



長倉伯博氏



中川初美氏



研修会風景



～病院栄養関係職員医療安全対策研修会を実施して～

今年度は195名の参加者があり、「食中毒予防の衛生管理」と、「がん患者さんへの対応」をテーマに3名の先生にご講演をいただきました。冬場にかけてのノロ対策の新しい情報を学び、また、超音波加湿器の問題点についても学びました。午後は、緩和ケアチームでの栄養部門の役割やコミュニケーション能力の重要性を学び、私たち栄養の担当者にとって、最後まで美味しく食べていただく為の工夫も必要であることを感じました。

公益社団法人 山口県栄養士会医療専門部会長 有富 早苗

研修会報告

平成27年度 中堅看護師研修会

平成27年11月18日（水）、山口県セミナーパーク講堂において中堅看護師研修会が開催され、167名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下の通り。

テーマ 「認知症看護の基本」

講師 山口県済生会下関総合病院 主任看護師
認知症看護認定看護師 吉永 奈央 氏

テーマ 「病院の診療における中堅看護師の役割」

講師 山口県病院協会
顧問 小田 裕胤 氏

吉永講師は、まず、認知症は脳の病気であること、そして認知症の人の世界を介護者が理解し、そちらへ近づくことが認知症看護において重要であると説明された。このような対応をすることで認知症の人でも認識が可能になる場合があり、残っている機能を援助することでお互いのストレスを軽減できるという講演に、受講者たちは実際の現場と照らし合わせながら聴講し、講演終了後には熱心に質問する姿も見られた。

小田講師は現在の激変しつつある医療界全体を俯瞰し、そのうえで中堅看護師に求められる役割を説かれた。「医療はサッカーだ」という語を引用し、それぞれ専門家のチームである病院において、中堅看護師は他職種との連携・新人育成の鍵となる存在であり、チームプレーの中心となるよう期待を込めて激励された。



吉永奈央氏



小田裕胤氏



研修会風景



山口県済生会下関総合病院
看護師

高橋 美希

～中堅看護師研修会に参加して～

高齢化が進んでいく中で、当院でも認知症のある高齢患者が増加している。看護師は、認知症患者の記憶障害や見当識障害などの中核症状やせん妄、不眠、徘徊など周辺症状にとらわれてしまうことが多い。そして患者が安全に治療を受けられるために、最小限の抑制を必要とすることもあると考えていた。

吉永先生が講義の中で、身体抑制だけが抑制ではなく「フィジカルロック」「スピーチロック」「ドラッグロック」の3つのロックがあることを話された。自身の今までの看護を振り返ると、不穏症状のある患者に「危ないから立たないでください」という声かけをすることが多く、患者の行動に抑制をかけていたことに気づいた。患者がどうしてもそのような行動をしようとするのかを探り、患者の生活パターンや背景、ADLに沿った看護を行ない、生活援助をすることが必要であると改めて感じた。今後は、看護師から認知症患者に寄り添い、できていることに注目して援助し、人間としての尊厳を保てる関わりを行っていきたい。

また小田先生の講義で、中堅看護師としてリーダーシップを発揮し、自部署の問題解決に取り組んでいくこと、また自部署と他部署または他部門と良好な関係を築くために、チームの中核として働きかけることが必要であることを学んだ。後輩の手本となれる看護師になるためにも、リーダーシップを発揮し、自己学習を継続し、自己成長をしていきたい。

諸会議報告

平成27年度 第4回理事会

日 時 平成27年11月5日（木）15:30～

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 平成27年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. 第12回山口市在宅緩和ケア市民公開講座後援依頼について

【協議事項】

1. 四県病院協会連絡協議会に提出する議題等について
2. 冬季医療経営講習会の開催について
3. 事務長部会研修会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療対策協議会委員
会長 木下 毅（再任）
 - ・山口県がん対策協議会がん登録部会委員
理事 竹重 元寛（新任）
 - ・山口県看護職員確保対策協議会委員
理事 玉木 英樹（新任）
 - ・山口県医療対策協議会委員
監事 尾中 宇蘭（再任）

2. 平成27年度秋の叙勲受章 保健衛生功労について
3. 山口県選奨 保健衛生・環境功労賞受賞について
4. 第11回医療関係団体新年互礼会について
5. 県各種委員会等の結果報告について
木下会長
・山口県医療審議会医療法人部会
三浦副会長
・やまぐち子育て連盟総会
内山理事
・健康やまぐち21推進協議会

平成27年度 第3回情報管理委員会

日 時 平成27年12月18日（金）15:00～

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について



事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会・各支部会議報告

開催支部と研修会等テーマは次の通り

【長門・萩支部】

開催日 平成27年11月27日（金）

場 所 長門市応急診療所

講 演 テーマ 「2025年に向けた病床機能と病床削減20万床のゆくえ」

講 師 総合メディカル株式会社コンサルティング事業部
シニアコンサルタント 河東 茂明 氏



長門・萩支部

河東氏は、これからは外来患者が少ない地域で特徴や専門性のない医療機関は、淘汰される可能性があるとの予測。ダウンサイジングによる効率化や地域連携の必要性和共に、治療から予防へ、医療から介護へ、在宅医療といったところにビジネスチャンスがあると説かれた。

瑞宝双光章受章 おめでとうございます

平成27年秋の叙勲におきまして、当協会の推薦により、元常任理事で医療法人協愛会阿知須共立病院院長三好 正規先生が、保健衛生に尽くされた功績により、瑞宝双光章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、地域医療の更なる充実発展の為に尽くされることをご期待申し上げます。



三好正規先生

主な経歴

昭和55年2月～現在	阿知須共立病院	院長
昭和61年4月～平成8年3月	吉南医師会	理事
平成8年4月～平成12年3月	同	副会長
平成12年4月～平成16年3月	同	会長
平成7年4月～平成11年3月	山口県病院協会	理事
平成11年4月～平成25年3月	同	常任理事



瑞宝双光章

お知らせ

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しましょう！

女性活躍推進法が成立し、301人以上の労働者を雇用する事業主は、平成28年4月1日までに以下の1～3を行うことが義務となります。300人以下の事業主は努力義務となります。

1 自社の女性の活躍状況を把握し、課題分析を行ってください

次の女性の活躍状況（①～④）については必ず把握し、課題分析を行ってください。

- ① 採用者に占める女性比率 ② 勤続年数の男女差
- ③ 労働時間の状況 ④ 管理職に占める女性比率

2 行動計画の策定、届出、社内周知、公表を行ってください

- ・ 1の結果を踏まえて、女性の活躍推進に向けた【①行動計画の策定】、【②都道府県労働局への届出】、【③労働者への周知】、【④外部への公表】を行ってください。
- ・ 【①行動計画】には、(a) 計画期間、(b) 数値目標 (c) 取組内容 (d) 取組の実施時期を盛り込んでください。

3 自社の女性の活躍に関する情報を公表してください

★女性活躍推進法の詳細は、厚生労働省ホームページ（女性活躍推進法特集ページ）をご覧ください。

女性活躍推進法特集ページ

検索

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>

<お問合せ先> 山口労働局雇用均等室 （電話）083-995-0390
〒753-8510 山口市中河原町6-16 山口地方合同庁舎2号館5階

お知らせコーナー

平成27年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

山口県病院協会 副会長
一般財団法人防府消化器病センター 防府胃腸病院
理事長 三浦 修 先生

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月20日県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において山口県病院協会副会長の三浦先生が受賞されました。

三浦先生は、昭和59年から防府消化器病センター防府胃腸病院に勤務され、平成23年4月に同病院の理事長・病院長に就任、今日まで31年余の長きにわたり地域医療の向上に尽力されました。

その間、山口県病院協会理事・常任理事を歴任され、平成23年4月に副会長に就任以降は会長を支えながら協会の発展に努めるとともに、山口県社会福祉審議会委員等の行政委員を務めるなど、幅広く医療分野の発展・向上に寄与した功績は顕著であることにより今年度の県選奨受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。



賞状写真



山口県庁にて奥様と共に

産業医の選任に関するアンケート調査のお願い

産業医については、労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業場に選任の義務が課せられていますが、この度、病院や社会福祉施設等における産業医の選任状況を把握するため、全国的に調査が行われています。1月29日（金）までに山口労働局労働基準部健康安全課までご提出いただきますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|--------|---------------|------------------|
| ○1月9日 | 医療関係団体新年互礼会 | （会場：ホテルニュータナカ） |
| ○1月14日 | 総務委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○1月22日 | 四県病院協会連絡協議会 | （会場：ホテルグランヴィア岡山） |
| ○1月28日 | 第5回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○2月24日 | 事務長部会研修会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○3月9日 | 冬季医療経営講習会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○3月18日 | 診療報酬改定説明会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○3月24日 | 正副会長・顧問会議 | （会場：ひさご） |
| ○3月中旬 | 県医師会・県病院協会懇談会 | （未定） |

編集後記

◆新しい年が始まりました。また、同時に本会報も記念すべき50号を迎えました。本号では、木下会長、小田山口県医師会長の年頭のご挨拶に続いて、山口県病院協会ならびに会報作成に深く関わられた先生方からの会報に寄せる思いを寄稿して頂きました。今後の会報作成への貴重な応援歌だと感じます。◆さて、慢性的な医師不足に加え、地域医療構想の策定や4月の診療報酬改定など今年も逆風は止みそうにありません。あれもこれもの高福祉の時代から、下り坂の福祉の時代が始まっています。医療や福祉をどこまで縮小するのか？ その時、何を残し、あるいは何を伸ばして、何を削るのか？ 厳しい選択の時代が来ることは間違いのないと思います。◆危機感をみんなで共有し、そして、智慧を出し合って将来の医療福祉の構想を描いて行かねばなりません。若い医療者が、今後ともモラルやモチベーションを保っている様な社会にすることが私どもの責任です。

（名西 史夫）